

繭價一飛躍

御祝儀相場を突破

高値五十五圓廿錢に騰る

養蠶家は急に掃立を増加

四倉繭市場の十七日取引は仲買人の買氣旺盛から高値相場は遂に初日の御祝儀相場五十二圓を突破して最高五十五圓二十錢、安値四十三圓、馴四十八圓五十錢三十七掛と云ふ高値を見せ

桑葉不足に

養蠶家地團太

引續く四倉繭市場の高値に刺戟された郡下養蠶家は何れも掃立増加をして居るが肝腎の桑葉は伸長不足から

土地賃貸價格の

改訂に就て

高屋平稅務署長談

現在地租を徵收する課稅標準となつてゐる土地の賃貸價格は、大正十五年法律第四十五號賃貸價格調査法に依りまして、大正十五年四月一日現在の有租地について調査され昭和六年法律第二十八號地租法を以て同年四月一日から實施されたものであります。

總麵、米麥加工講習會を開いて農村の生産物加工の促進を圖ると

江名隧道

掘削工事

實測の上着工

江名町大字上神白地内小名濱町に通ずる縣道の神白隧道は土砂崩壊が年中あり危険多く同所通行人に不安を與へてゐたが愈々工費三萬圓を以つて東北振興會の豫算で改修工事を施行することになり明十九日から縣土木課の木村技師が來郡實測を行ふが本工事は延長四百五十米に亘る掘削工事と同時に從來のカードも直線に改修される筈

磐女の競技會

既報 磐女二、三、四學年のクラス對抗球排球籠球の各競技會は今十九日放課後同校の稅務當局は非常な苦心を拂つたものであります。

利益處分

廿三日に總會

磐城セメント會社

磐城セメント會社では十六日午後三時から本社に重役會を開き左の當期利益金處分案(配當八分据置)を査定するに於ける定時株主總會に附議することになつた(單位千圓)

當期總收入	三、六五二
當期總支出	二、五八一
固定資産減價銷却	五五〇
役員賞與金	五七
差引當期純益金	二六二
合計	七二六
此り處分	
法定積立金	二五
使用人退聲慰勞基金	二二
株主配當金	四〇六
後期繰越金	二七二

地租はわが國に於て最も古い租稅で、舊幕時代に於ても五公五民と稱し、一種の地租が徵收されて居り、明治維新後早くも昭和六年地租法を標準とする地租條例が定められその後昭和六年地租法が施行せられるまで恰度四十八年間續いたのであります。その間に地價は地價修正は僅に數回あつたのみで大正十五年に行はれた土地賃貸價格の調査は、この舊來の地價課稅を賃貸價格課稅に改め様として當

大正十五年の賃貸價格調査の際も全國一億三千餘萬筆の一々實地に調査し、これに賃貸價格を附するまでに、一千萬圓を超える國費と二年の歳月とを費し一面亦從事者は血を吐く程奮闘努力をしたものであります。今回の改訂に於ては筆數著しく増加せしにも拘はらず經費は時節柄と云ふ譯から六百萬圓程度即約半額で仕上げねばならぬから中々困難ではあるが世間の御同情により完成を亞げたいと思ふて居ります。

大正十五年の賃貸價格調査の際も全國一億三千餘萬筆の一々實地に調査し、これに賃貸價格を附するまでに、一千萬圓を超える國費と二年の歳月とを費し一面亦從事者は血を吐く程奮闘努力をしたものであります。今回の改訂に於ては筆數著しく増加せしにも拘はらず經費は時節柄と云ふ譯から六百萬圓程度即約半額で仕上げねばならぬから中々困難ではあるが世間の御同情により完成を亞げたいと思ふて居ります。

五月人形陳列

新興日本のシンボル!

弊店特製の大鯉のぼり大好評 皐月晴れの空に勇ましい鯉を翻へして日本男兒の意氣を轟く五月節句が近づきました。弊店は逸早く尙武の祝に相應しい品々を豊富に取揃へ皆様の御來覽をお待ちして居ります。

- 大鯉のぼり (一間より七間迄) (御注文に應ず)
- 屠鐘外幟 (二巾、三巾、五巾等)
- 特撰武者人形 (箱入ケース入)
- 甲冑揃
- 御座敷幟
- セツト (五圓より百五十圓迄)

進物用は一圓より取揃へてあります。

フクヤ祝品部 平 二丁目

橋本屋 造花店

神佛具 廉價迅速



番三六一電 町川新町平

教授法座談會 既報 農繁期休校の郡下農村小學校教員百餘名は今十八日午後三時から兒童教授法に就いて座談會を開いた

司法改善協議 福島 地方才判所管内の司法事務改善に關する協議會は來る二十五日福島に開かれる

が平才判所からは中島監督 判事清田上卒檢事兩氏の外 小野、黒澤の兩監督書記が出席すると

平町人事 回死 亡

△二町目一三 丹野榮三郎 氏(六六)

△道匠小路二四 蓮田勝次 郎氏(一七)

商賣敵の反目から

庖丁を揮つて刃傷

悪罵されて遂に逆上

小名濱町白晝の亂闘

十五日午後四時頃小名濱町字蛭田魚行商野兼助(四九)は豫て商賣敵の同町本町魚行商矢吹郁三郎(三九)が自宅前を通り合せたのを呼びとめ忽ちにして口論となり矢吹がけちん坊と罵つたのに憤慨逆上し刺身庖丁を揮つて矢吹の頭部に斬りつけ全治一ヶ月の重傷を負はせ平署に檢舉された

一回大會を開催する由男の節句に

小運動會

平第一校は舊端午の節句を祝し校庭に大鯉職を立て、子供達の出世を祈つてゐるが廿三日の節句當日は陸上小運動會を催す由にてプラン作成中

愛の巢?

平町に搜索願

栃木縣下都郡石橋町宇石橋高山ヒサ方茨城縣多賀郡磯原町宇壽町生卯之吉長女永野キヨ(三九)は元同町常野共同新聞販賣所主任の同郷人小島國義(五九)と豫て戀仲になつてゐたが去る十一日正午頃示し合せて駆落平方面に入り込み愛の巢を造つてゐる形跡あるので本十八日高橋から平署へ捜査方願ひ出た

漫談の夕延期

平青年團の資金造成漫談と映畫の夕は来る二十日聚樂館で催す筈の處漫談家大辻司郎氏の都合に依り來月中

死人をこき下した

不心得な中年男

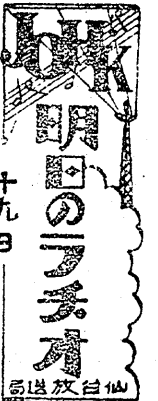
葬式の當日に

内郷村大字宮字鬼の澤草野利久は本十八日平署に同村宮字臺草野金四郎(七九)を名譽毀損で告訴したが理由は去五月十一日告訴人の祖母ヒサが死亡して葬送の際被告訴人が突然死人を惡罵して多人數の中で告訴人方並に死人の靈を辱かしたと云ふの

宿料踏倒

平署に逮捕

湯本町字本町山形屋旅館に去る四日より十二日迄宿泊した東京市淀橋區豊島町五四三株式賣買業池内正一(四九)は十三日宿泊料並に飲



明日の天気 今夜は南の風晴 明日は南の風晴 一時曇り

今晚の部

- 後六、〇〇 お話 林子平
- 阿刀田二高校長 趣味講座 日
- 後六、二五 趣味講座 日
- 食の傳説と迷信 野尻抱影
- 後七、三〇 講演 明十九
- 日の日食について 田中
- 館愛橋(女満別)より中
- 後八、〇〇 俳諧 岡本新
- 内 秋田縣土崎港町藝妓
- 後八、二五 短歌朗詠
- みだれ集 光田作治
- 後八、三五 新日本音楽
- 「うたて鼓」瀬音宮城道雄
- 社中
- 後八、五五 ハープ獨奏と
- 二重奏 加藤敬子 泰同
- 後九、一〇 今日の漫談
- ラッキー セブン
- 後九、三〇 時報 ニュー
- ス 明日の話題 氣象通
- 報 番組豫告

苗代の損害賠償

千參百圓で解決

人絹の毒液流出問題

(既報)錦村昭和人絹工場(二五)の毒液流出被害問題に就いては稲苗の損害賠償を過般來同村内被害者代表の石城郡農會が人絹工場と折衝中であつたが昨十八日の折衝の結果當初五千圓の賠償請求に對して結局千三百圓の賠償金を以つて圓滿解決した

自動車検査

平、植田四倉、富岡署管内自動車々體検査は来る廿五、六、七の三日間平町八幡小路の自動車検査所で行ふが受検車は卅四、五臺の見込

裁判一束

△人絹會社の職工福田正吉(三九)を脅し付け時計を強奪した錦村大字中田字上中田

平職業紹介所報告

△人絹會社の職工福田正吉(三九)を脅し付け時計を強奪した錦村大字中田字上中田

明日の部

- 前六、三〇 國語講座 佐伯常廣
- 前七、〇〇 一朝の修養 六
- 波羅密 矢吹慶輝
- 前八、〇〇 婦人講座
- 婦人の爲の經濟常識 家
- 庭の小口金融 佐藤善郎
- 後八、〇〇 アンソニー中繼
- 「ホーミアン・ガール」東
- 京市麹町區大阪ビル内メ
- トロ試寫室中繼
- 後八、三五 國民歌謡「朝」
- 永田絳次郎
- 後九、〇〇 時報と日食實
- 況 女満別、東京其他各
- 局
- 後六、〇〇 お話 百年後
- の世界はどうなるか 佐野昌一
- 後六、二五 基礎英語講座
- 鹽谷榮
- 後七、三〇 講演 滿洲農民移民と農業青年
- 後八、〇〇 ラヂオドラマ
- 「爆音」友田恭助他
- 後八、三五 ビアノ獨奏
- 「二八三六年以降のピア
- ノ曲」クローツァー(桃
- 谷中繼)
- 後九、〇〇 小唄 金子千
- 恵子
- 後九、一〇 今日の漫談
- ラッキー・セブン

職を求めの方

- △出前持 廿才前後 給料 四一五圓
- △事務員 卅三才 乙工卒
- △荷上人夫 卅二才 尋四
- △トラック助手 廿五才 高卒
- △精米夫 廿四才 尋卒
- △農夫 四十才前後 月給 二圓
- △農夫 四十才迄 月給 十
- △材木運搬夫 卅五才迄 日給一圓五十錢
- △外交販賣員 廿五才迄 給料歩合
- △材木運搬夫 卅五才迄 日給一圓五十錢
- △農夫 四十才迄 月給 十
- △農夫 四十才前後 月給 二圓

歯科口腔外科

レントゲン科

院長 東京齒科 醫學士 原 精一

原齒科醫院

吉田眼科醫院

平紺屋町 電話六八番 醫學士 吉田久雄

繞る瓦解の今

（橋上映上）
（映時）

悟道軒圓玉（作）
丸尾至陽（畫）



一五〇 彰義隊起源
上野にあつまりし彰義隊は山内警固且つ市中取締と揚言して夜に入ると彰の字を記した手九提灯をつけて十人二十人と黨を組んで市中を巡廻いたす、江戸では彰義隊の評判が大層よかつたこのさびれた江戸も彰義隊によつて挽回するであらうと思ひ、また市中の秩序の亂れたを幸ひ白晝強盜の横行も彰義隊によつて一時これがへいそくした、して見れば市民が彰義隊を徳としたのも最も、次第く一人數がふえて来て三千人になつた、すると山下の薬種問屋井口半左衛門が町内の主立ちし者を有名な料理店松源へ呼びよせて、

半「さて皆さん、われは永いこと上野の御恩をうけてゐます、お山には寺が三十六坊あつて、それらの御用をたし不自由なく妻子をやしなつてゐた、又上野があればこそ山下の商店も繁昌してゐる、して見ればお山は大切だ、そこへ今度彰義隊といふ名義で徳川様の御家來やまた浪人衆がこもつてゐるこれは宮様の御警固をしてまた市中の取締



さんから出して頂きたいとかういひ渡した
○「それは結構、御恩をうけた上野山内のためとあらば可愛娘を質においても矢來の入費は出しますよ、しかし何日頃戦になりますね」
半「それは判らない、俺が軍師になつて戦ふわけではなし何日戦をするかそれを受合ふことは出来ません、しかし要害は一刻も早くしらへておかすばなるまい

引きうけて戦をするにはその用意を整へずばなるまい
まづ第一に兵糧、それに續いて武器火藥、またその他には敵をふせぐことは出来やうに堀を掘るとか矢來が入用それについて上野の覺王院様よりのお話したが山下の商人の一手で矢來をつくれといひなされるそれで山のまはり竹矢來を結ぶことにしたがこの入費は皆

この上にも兵士の増さぬうちに討伐したがよからうとこんな説が芽をふえて来たしかし大參謀の西郷先生は西「イヤまづまて、戦をする程のことはないぞ、今に彼等は解散するであらう」といつてゐたがなか／＼解散する様子がない、夜はかゞりびをたき兵を配置してさア官軍押して来いと待うけて居る、それでは捨て、おくことは出来ない、その上肥前大村の兵が越ヶ谷に居る官軍のもとに送る火藥を車に積み上野の山下まで來ると彰義隊が二百人あまり山を下つて来てこの火藥を奪ひました、これを聞いて官軍は兵を出して討たねばらぬと決心したがそれをなだめた西郷先生は幕臣の山岡鐵太郎氏を池上本門寺の總督府に招いた、西郷先生と山岡氏とは知己です、それに山岡は号を鐵舟と申し無月流劍法の達人、しか

店主	が	店員
を	連	れ
か	れ	る
正	シ	イ
正	シ	イ
正	シ	イ
酒	場	
喫	茶	
食	堂	

平・田町
レストサロン
電三五二番

も幕府でまふけた講武所師範役
山「何ういふ御用でございませうか」
と問ふた時に西郷先生が西「あんたは御苦勞ぢやがのう」
上野に行かれて彰義隊の主立し者に利害を説いて解散させてもらひたいものぢやが何うか」
とかう聞いた、山岡はしばらく黙して居りました、すると
西「解散させることは困難か」
と重ねて西郷先生が申し

北川外科
平町新町
院長 北川若夫
電話 四六四



五月 御祝品出賣

平町四丁目
スガノヤ提灯店
電話九五番

武人形
陣道具セツト
鯉 布

父丹野榮三郎儀病氣の處療養不相叶
昨十六日午後八時死去仕候間此段御
通知申上候

追而葬送の儀は六月二十日午後二時自宅出棺
大館青雲院に於て佛式により相營可申候

昭和十一年六月十七日
福島縣平町二丁目
喪主 根本善吉
親戚一同

小瀧へ!!

◆宿泊料 1.50 2.00 2.50
（御滞在は左記料金にて中食料をふくませます）
◆日歸浴席料 .20
◆自炊料 .50-.80 {入場料・室料
夜具料一切
◆料理一定食 .80 1.00 1.50
（その他一品料理洋食）
◆湯 効 神経痛、リウマチ、胃腸病、痔疾、婦人病、逆上、中風、肥胖病
（内務省東京衛生試験所検定済）
◆諸設 備 撞球臺、高級ラヂオ、大廣間
讀書室、近代式浴場と洗面所、水
洗式便所、小動物園、タクシー
御子様運動器具
◆名物 川魚料理(うなぎ、鯉)蜂蜜羊かん

●女中數名入用●

常磐線湯本驛 小瀧鑛泉
御旅館 龍の湯
御自炊
電話 (小名濱) 103番